

Zone D 授業研究

子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織するか

これまで Zone D では、「子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織するか」というテーマで、特に探究的な学習を支えるためにどのように授業研究・保育研究を組織していくと良いのか考えてきました。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響から、各学校において遠隔授業の取り組みが進められつつある状況に鑑み、「遠隔授業における教師の協働と子どもの主体的な学び」に焦点を当て、各学校でどのような実践が行われてきたか、またその実践はどのような教員コミュニティに支えられていたのかについて考えます。

シンポジウムでは、「遠隔授業における教師の協働と子どもの主体的な学び」について、福井大学附属義務教育学校前期課程での双方向型遠隔授業の取り組み、アメリカやシンガポールの海外の事例から、そこでの教師の協働と子どもの主体的な学び、さらにそれら実践を支える授業研究や保育研究について探っていきます。

フォーラムでは、シンポジウムで出てきた問題提起を踏まえて、保幼小・中高・特別支援という3領域に分かれ、各領域での話題提供や参加者の実践を手がかりに、参加者がそれぞれの校種や領域で具体的に実践を捉え直していきます。

Session I	13:00-15:00	Symposiums	遠隔授業における教師の協働と子どもの主体的な学び
<シンポジスト>		アメリカ	クイーンアン小学校・教諭 エリザベス スギノ 氏 福井大学教育学部附属義務教育学校前期課程・教諭 澤本恵 氏 シンガポール テマセックジュニアカレッジ ブーン・ウィ・ナング 氏
<コーディネーター>		福井市安居中学校・校長	牧田秀昭 氏 福井大学連合教職開発研究科・特任教授 三田村彰 氏

Session II	15:30-17:00	Forums	多様な授業研究・保育研究から学び合う
A	保幼小の実践に学び合う		参加者の話題提供を踏まえ、お互いの実践を交流します。
B	中高の実践に学び合う	福井市安居中学校・教諭	川端康誉 氏 竹内恭平 氏 福井県立若狭高等学校・教諭 渡邊久暢 氏
C	特別支援教育の実践に学び合う		参加者がお互いの実践を交流します。